

186

こんにちは。塾長の大井です。

前回・前々回のつづきです。

そんな国語の最重要テーマに関して、先日小5のお母様からこんなメールをいただきました。

『息子に関して、TOPに通わせていてよかったと思うことがありましたので、大したことではないのですがメールさせていただきました。

5年生になって初めての国語の授業で、担任より「なぜ国語を勉強するのか」について100字ぐらいで書かされたそうなのですが、それに関して多くの子が「本を読むため」とか「国語の問題を解くため」などと記載している中、このような考えを書いてくれた子がいました、と息子の文が学級通信に紹介されていました。

その内容をざっくりまとめると、「他者を深く理解するため」というもので、私も最初に学級通信を読んだ時には息子の字とも気付か

ずに、5年生ともなるとちゃんとした考えを持ち、それをこうやって表現できる子がいるものだなあ、と感心していたら、他のお母様からあれは息子の書いたものだと聞いてさらにびっくりした次第です。しかし、あの国語力不自由な息子があんな考えを持っていたとは！と驚きつつも思い至ったのは、TOPでの授業ノートや課題の内容の深さです。

息子に嫌がられながらもたまに授業ノートを見せてもらい、この深い内容に息子がちゃんとして行っているのか微妙・・・と思っていたのですが、それはそれで置いておいて、入試のためだけの小手先の勉強ではなく、学ぶことの本質を授業を通して教えていただき、それに関しては息子にもちゃんと先生の熱意が伝わっているのだな、と嬉しく思い感謝の気持ちを先生にお伝えしたく、長々と書かせていただきました。

何かと要領の悪い息子ではありますが、今後ともよろしく願いいたします。』

他のご家庭からもこのようなご報告をいただくことが少なからずあり、導き手としては点数が上がる以上に何より嬉しく感じます。

このメールのお子さんは確かに器用ではありませんが、純粋な感性を持っていて、いつもとても楽しそうに授業を受けています。

メールを下されたお母様は、私がGWに出した課題図書にも夢中になり、お子さんより先に読み終わったとおっしゃっていました。

そんなご家庭の文化も間違いなく本人にいい影響を与えていると感じました。

そんな感受性をいかにして育てていくのかについて、次回記したいと思います。

(次回につづく)

2018年5月28日

大井雄之